

【精神的社會問題と環境】

健全な肉体に健全な精神が宿る

■ 生命エネルギーの低下と心の問題

『病は気から』

確かに、人間関係や精神的問題も大きな病の原因や要因となります。また、人間にとって心や感情は人生や行動にとっての大きなモチベーションとなります。人間は本来、肉体とその意識体である感情機能、そして、肉体を器とする人間の本質である魂と、その意識体である感性や精神機能の集合体です。では、人生や肉体に大きな影響を与える心や感情の発動原理はどうなっているのでしょうか。

人間は体の調子の良い時は心も弾み、前向きになり行動的になります。少々なことは気にならなくなり、忍耐力もあります。そして、益々調子が良くなります。しかし、疲れた時は心も沈み、やる気も無くなります。そして、少しのことでも気にしたり、心を病んだりします。つまり、人間の心や感情は、肉体の生命の仕組みの中に存在し、生命力の状態で変化するものです。従ってエネルギーの低い人や、低い状態の時にプラス思考や前向きになれと言っても難しいのです。エネルギーが高くなると何にも言わなくても、プラス思考にも前向きにもなっていきます。

多くの心の問題はこうした観点から見て行くことも大切です。

■急増する【イジメ】は環境ストレスから！

病気や多くの社会問題と同様にイジメ問題も社会の環境悪化に合わせて増加の一途を辿っています。

社会で騒がれているにも関わらず何故増え続けるのでしょうか。

そこには、虐める側も虐められる側も同じネガティブな要因が働いているのです。人を虐めたり攻撃する時にはネガティブな精神的エネルギーが働いています。また、気が弱かったり心配性な虐められる側にも、同じ精神的エネルギーが働いています。

つまり、対照的な関係でありながら、エネルギーレベルでは同じ所にいるため、常にこうした関係が続けることになります。

元気でニコニコ楽しくしている生徒がイジメの対象にならないのはその為です。同じ空間にいながら、全く異なる波動レベル、意識空間に存在するからです。

一方、人間は生命力が上がって来ると心に余裕が生まれ、人にも優しくなり、時には面倒みるようにもなります。

本来、被害者も加害者も同じように、環境エネルギーの低下が精神的ストレスを作り出すことからくる被害者であると言えます。従って、言って聞かせたり注意したり、隔離したりして解決することではありません。

ましてや、家庭や学校の先生や教育委員会、文科省等と責任転嫁しても解決しません。

イジメ問題は学校だけの問題ではなく、家庭内から職場、マスコミ、国会に至るまで存在しています。

■【家庭内暴力】は環境改善で治る！！

◆家庭内暴力

環境エネルギーの低下は人間の生命力の低下をきたします。
そして、生命力の低下は感情面をストレス状態にします。
こうしたストレスによる混乱状態の一つが家庭内暴力です。

心は自殺や引きこもりや攻撃的な行動に揺れ動いています。
学校や職場で攻撃的に出来ない時に、その発散の対象が一番もってき易い家庭に向けられます。

特に母親が対象になります。
何故なら一番受け入れて欲しい対象だからです。
決して憎くて叩いたり、恨んで叩くのではなく、心の中は助けて欲しいのです。

叩けない時は自殺の可能性もあります。

■ある中学生の家庭内暴力の子供を抱える家庭では、母親が鬱状態で体験ハウスを訪れ、体力や生命力の向上につれて、鬱状態が回復して行きました。
その後、ご主人も見えました。

そして、自宅マンションにエネルギーシステムである[えびす柱]を設置しました。

その結果、免疫 11、ストレス度 7 のシックハウスが⇒免疫 17、ストレス度 17 の奥多摩の山林並みの自然生命エネルギーに満ちた環境に変わりました。

その子は、その日から切れなくなり、何時も当たっていた母親に 3 日後には自分の問題解決の打ち明け話を初め、1 週間後には母親と息子で何時間も普通の会話が出来るようになり、2 週間後にはお母さんをハグしたそうです。

アトピーも始まって、1 か月後には受験も控えていたことから、その後、岩盤浴特別強化ベッドを息子さんの為に設置しました。
1 か月後には無事受験も受かりました。

そして、大学 2 年生になった時に、今自分が大変充実していることを母親に打ち明け、友達が皆疲れているので、夏休みになったら体験ハウスに皆連れて行こうかと思っていると言われたそうです。

■ストレス状態のシックハウスマンションが奥多摩の森林のような環境に変わった途端、ストレスから解放され、本来の豊かな心に戻ったのです。

全く病と同じで環境がエネルギーを取り戻すと、人間の体も心も勝手に本来の姿に戻るものです。

■【登校拒否】は環境改善強化と体力アップで解消！

◆登校拒否

ある時、登校拒否の小学5年生の男の子と、中学1年生の女の子を持つ母子家庭のお母さんが、体験ハウスを訪れて体験して帰りました。

その話を聞いたお子さん達がホームページで見て、行きたいと言われたからと、お母さんが連れて来ました。

登校拒否の男の子も、女の子のように優しそうな子でした。

登校拒否の話を聞きましたので、自らの小学校3年間の登校拒否の体験を話し、学校に行かせなくても良いから、決して学校に行くように子供に強く言うてはいけなし、無理して行かなくても良いからと、母親が守ってあげるようにお母さんに言いました。

僕の気持ちを分かってくれるのは社長さんしかいないと、あとからお母さんに言ったそうです。

二人のお子さんが岩盤浴特別強化ベッドとえびす柱を気に入られて、欲しがっているからとお母さんが何とかお金を工面して、自宅に取り入れました。

また、伊豆七島新島の神社の境内で巨大な御柱の建立祭があるから、是非お子さんに体験させると良いからと勧めたところ、お母さんと息子さんが3日間の建立祭に参加しました。

シックハウス環境の家の中が、伊勢神宮の境内並みな環境に変わり、豪快な御柱の建立に参加されると、お子さんの体力も生命力も上がり始めて、段々と自分の意思で登校に挑戦し始めました。

そして、1か月した新年の目標は『僕はもう1日も休まない！』だったそうです。

その頃には、女の子のように優しそうだった子がすっかり変わり、顔立ちも言葉にも力が入り男の子らしくなっていました。

自らの足で立ち上がり、自主的に行動出来た体験は、彼の将来の大きな財産になるでしょう。

何故子供の登校拒否が起きるのか？

そこをしっかりと理解することです。

子供が登校拒否しているのではなく、言われなくても本人が一番登校したいのです。

しかし、決断力や行動力、そして勇気とは人間の体の中に組み込まれた感情機能であり、その力を決めるのは生命力の働きなのです。

そして、生命力とは自然環境にそんざいする自然生命エネルギーなのです。

現在のような自然環境や生活環境の悪化はこうしたイジメ問題や登校拒否等の問題を益々増加させています。

■【鬱・引きこもり】は体力向上で解消！

◆鬱・引きこもり

やはり電磁波や環境悪化による影響から鬱や引きこもり障害も増加現象にあります。

■コンピューターやパソコンを長時間使う仕事から鬱病になり、田舎に帰って精神病院に通ううちに薬付けになり4年間自宅生活していた女性は、室内の環境を活性化させるえびす柱やワンルーム特別強化施工等を行った結果、直ぐに正常に回復しました。

しかし、まだ体力の回復しないうちに四年ぶりに出た都内で倒れ、救急車で病院に運ばれ、そこで霊障に懸かってしまい現在対応しています。

環境が原因で肉体的な障害からくる鬱は回復が早いですが、霊的障害は別の次元になりますが、いずれにしても干渉を受けない健康な肉体と精神が大切です。

■また、39歳になる女性は25歳から引きこもり状態で、お母さんと生活していましたが、お母さんが亡くなり、姉夫婦が引き取ることになりました。

たまたま姉夫婦が体験ハウスに岩盤浴特別強化ベッドを買いに訪れて、体験ハウスの効果を聞いて、引きこもりの妹さんを連れて来ました。最初の3日間は殆ど話しもしない状態でしたが、それを過ぎると徐々に会話を始め3週間後には数値も改善し、完全に快活な女性に変わっていました。

■やはり、東京で働いていて鬱状態になり田舎の実家で引きこもりをしていた20代後半の女性は、難病指定も受け、脳腫瘍も抱えていました。

3週間の滞在で鬱も消え、神の手と言われる脳外科の先生からも見放されていた脳腫瘍も数値では消えていました。

そして、パニック状態の親との生活を離れて一人でアパート住まいを出来るまでになったそうです。

■平成17年当時は早い鬱は3日で良くなったりしましたが、環境が悪化した今は10日ほどかかります。何年もかかった引きこもりは改善まで3週間ほどはかかっているようです。

自分の意識を管理し、感情が安定するのに体の浄化と生体エネルギーの充実を行い、鬱状態の意識を消去して、プラス思考状態に転換させる時間がかかります。

■【幼児虐待】は何故起きるのか？

◆幼児虐待

かつて、静岡大学で二十日鼠の飼育実験が行われました。それはコンクリートと鉄と木のゲージで二十日鼠を飼育した時の健康状態を調べる実験でした。

その結果、木のゲージで飼育した二十日鼠の生存率は約 85%で、鉄のゲージでは約 44%、コンクリートゲージでは僅か 6,4%だったそうです。

しかも、木のゲージで飼育していた二十日鼠の親は子供の面倒をよくみていましたが、コンクリートのゲージで飼育していた二十日鼠の親は、子供の面倒をみることもなく、子供の鼠が死んでも無関心で、なかには自分の子供を噛み殺す親もいたそうです。

極端な例かもしれませんが、まさに今の幼児の虐待と共通したものがあります。

環境が悪化するに従い生活環境から自然生命エネルギーが失われます。そして、肉体の細胞組織は硬直化し、体内に取り入れられる細胞組織を活動させ、感情を豊かにし、決断、行動力を豊かにする生命力が低下して行きます。

そして、情緒不安定や鬱や精神的な不安定状態が起きる為、子供の養育が大きな負担となりパニック状態に陥る場合に虐待へと繋がって行ってしまいます。

子育てする親にも環境悪化が大きな負担となっています。

安心して子育てが出来、親も子も健康で、豊かに暮らせるための環境改善と活性化が必要です。

■【傷害事件】は極度なストレス状態から生まれる！

◆傷害事件

昭和の時代には極めて少なかった殺傷事件が頻繁に起きています。

■最も多いのが家庭内の傷害事件、殺傷事件です。
夫婦間や親子間やその他家庭内が一番起きやすいのです。

生命力が低下すると心配や不安感や、イライラや怒りなど感情面が不安定になって行くため、一番身近に居る者同士がその対象になって行きます。

■中には呼んでも旦那が返事もしないと、苛立っていた奥さんがいましたが、アトピーの改善のため岩盤浴特別強化ベッドを2台設置したところ、1か月もしないうちに、朝になるとニコニコして旦那の方から声をかけてくるようになったそうです。

■また、刃物を持ち出して無差別に殺傷する事件も増加していますが、殆ど口にすることは同じです。
『誰でもいいから殺したかった。』

人間の感情器官の中には、人間が身の危険を感じるような極度な不安に陥った時は、防衛の為に、相手や無差別な攻撃を加えて相手を倒し、身を守るといった情報機能も組み込まれています。

しかし、現在で環境悪化による生命力の極度な低下から、感情器官が混乱状態に陥り、コンピューターの誤作動状態を引き起こしているのが無差別殺傷事件です。

■【交通事故急増】の原因

◆バスやトラックや車による殺傷事故

最近は大変バスやトラック等の大型事故が相次ぎ、車による突っ込み事故や事件も続いています。

まず、車自体が電子レンジ以上の大変な電磁波を出し体力を奪います。疲れて眠くなったり、車に乗ると急に感情が荒くなったりするのはその為です。

まず、生活環境で体力が低下して疲労状態にあたり、情緒不安定になっているところに、さらにストレス度の高い車に乗ることで、身体は極度な状態にあるのが現状です。

こうしたことで当然このような事故や事件も増えていきます。

■生活環境の改善強化による健康管理と、車の電磁波対策や活性化対策による安全が必要です。

■【学力低下】環境のエネルギー

環境悪化と比例して学力も低下します。

これまで、スカンジナビアホームを建ててから子供の成績が上がったとか、えびす柱や岩盤浴特別強化ベッドを入れて環境改善したら高校受験に合格したとの情報を沢山頂いています。

環境エネルギーの向上は肉体の健康ばかりでなく、心や精神面の向上にも大きく関わるからです。

生命エネルギーは肉体の内臓組織だけでなく、人間の生きるための能力であるチャクラ面にも働きます。

生命エネルギーが上がると第一チャクラ、すなわち生命の源である生命力のチャクラが上がり、全てのチャクラを引き上げます。

これにより感情面の第二チャクラが上がり、心が安定し豊かになります。つまり、リラックス状態になります。

そして、決断力や行動力の第三チャクラが上がり、自信がつかます。

さらに、ハートや調和の第四チャクラが上がります。

こうした肉体のチャクラと精神チャクラは連動し比例しているため、さらに精神面の第五のチャクラ、創造力が高まり、第六の直感力や洞察力、そして、精神や感性の第七チャクラへと向上して行くため、落ち着いて、自信が付くと同時にアルファ状態になり、成績が上がることになるのです。

◆オリンピックやスポーツで何故勝てないのか？

スポーツには体力だけでなく直感力や感性も欠かせません。

ロンドンオリンピックにおいてはイギリスの金メダル 28 個にたいして日本は 7 個。惜しくも多くの銅メダルに終わってしまったのです。

金も銅もほぼ力は同格なのですが、結果は大きなちがいです。

もし、銅メダルを獲得した選手が同じ条件の環境で生活していたら必ず金メダルを取っていたはずです。

つまりイギリス選手の住まいの環境エネルギー値は免疫 14、日本の選手の住まいは、残念ながら生命エネルギーの枯渇した免疫 11 なのです。

人間の免疫 13 は重病人、免疫 12 では殆どの人は生きていません。つまり日本選手は生命エネルギーの枯渇したシックハウスならずデッドハウスに住みながら、超ハードな特訓を行っているのです。

肝心なデッドヒートで一步及ばない結果になるのは当然です。

『健全な肉体に健全な精神』

環境エネルギーが向上することで体力や自信が付くと同時に、直感力や精神力、感性が向上します。

こうした環境下であれば日本銅メダル選手達は間違いなく金メダルを取るはずです。

【精神的社會問題について】

動植物や微生物、ウイルスに至るまで、全ての生命体の発生や生存は環境によってコントロールされています。

病気に懸かってからの治療や、発生してからの対策でなく、常に健全で豊かな環境を心掛けることが病原菌やウイルスの侵入や発生を防ぎ、自らの免疫力や生命力を高めて、病気に懸かったり、感染しない身体づくりと、豊かで積極的な人生へと繋がります。

